

魚類のダイオキシン類調査結果について

1 趣旨

県では不法投棄現場下流の杉倉川、熊原川に生息する魚類のダイオキシン類濃度の状況を把握するため、平成16年度よりイワナ・ヤマメ・ウグイの順で1年に1種類ずつ魚類のダイオキシン類濃度の調査を行っています。本年度はウグイの調査予定でしたが、試料採取ができなかったため、ヤマメのダイオキシン類調査を実施しました。

2 検体採取日

ヤマメ 平成21年9月下旬

3 調査結果

平成21年度の調査結果（毒性等量）は次のとおりです。

調査結果はこれまでの調査結果と比較して同程度でした。

（単位：pg-TEQ/g-wet）

採取地点	平成21年度調査結果 （毒性等量）	これまでの調査結果	
		平成20年度	平成17年度
熊原川	1.8	2.0	2.5

※ 毒性等量とは、各化合物の実測濃度に毒性等価係数（TEQ）を用いて換算した値で、今回の調査ではWHO-TEF（2006）で定めたTEQを適用して算出。

【参考】

公表されている国（環境庁）が実施したダイオキシン類調査結果

（単位：pg-TEQ/g-wet）

年度	試料名	地域	毒性等量
H11	ヤマメ	関東地方	0.13～0.99
		中部地方	0.24～2.0
		九州地方	0.12

※平成11年度公共用水域等のダイオキシン類調査（環境庁）のうちヤマメについて

青森県（県境再生対策室）がこれまでに実施した魚類のダイオキシン類調査結果

（単位：pg-TEQ/g-wet）

年度	試料名	採取地点	毒性等量
H16	イワナ	熊原川	0.28
H18	ウグイ	熊原川	0.62
H19	イワナ	熊原川	0.72